

令和7年度第3回豊田市ジェンダー平等推進懇話会会議録

- 日時 令和8年2月26日(木)午後2時00分～3時30分
- 場所 豊田産業文化センター 3階 34会議室(とよたグローバルスクエア)
- 出席者 懇話会委員 石田 路子(座長)、吉野 まり子(副座長)
尾原 洋子、金原 良平、加藤 吏、本多 史子、照屋 恵美

事務局 ジェンダー平等推進センター 小澤、平田、村上、浅井

欠席者 本林 初代、安田 亜弥子、石田 祐己

1 開会

事務局挨拶

2 議事

(1) 豊田市ジェンダー平等推進センター事業実見評価実施報告

事務局が資料1に基づき説明。

<意見>

A 委員

自分以外の価値観に触れることによる気づきが多くあった。新しい知識を入れるインプットと自分で振り返ってそれを吐き出すアウトプットのバランスが良い。参加者の年齢層に偏りがみられるという点だが、市民団体が活動していく上で持っていてもいい知識だったので、団体に直接アプローチして研修として使ってもらうことで深い学びになるのではないかと。

B 委員

私たちは育つ中で無意識に思い込んでしまうことが多い。今まで教育現場でも、教科書の挿絵という、大人が作ったものの一つで固定観念を作ってしまった。しかし現行の教科書では配慮がなされているのを見て、大人たちのジェンダーへの意識次第で育っていく子どもたちが影響を受けるので、責任重大だと感じた。また大人でも知る機会がない人が多いと思うので、市民団体の方にもまんべんなく参加してもらったり、教員に興味を持ってもらい、子どもたちに還元してもらったりして欲しい。だからPRに力を入れると良いと感じた。

C 委員

パパ交流会ということで参加者を限定でき、好きなものを手段にして話をするのは感触がよかった。しかし参加できるパパは良いが、参加できないというパパに何か効果的な方法はないのだろうか。またアンコンシャスバイアスを上手く使えればジェンダー平等の意識の改革に役立つだろう。SNSにも固定観念をつけるイメージが広がっているため覚悟してかからなければ。

D 委員	参加者の中で 2 グループに分かれて、一方は仕事の話もう一方は家庭内の愚痴を話していた。最初は数名だけが喋っていて不安になったが講師のアドバイスもあり、色々な人が喋るようになっていった。話し合いを通じて前向きな気持ちに繋がったようでよかった。
E 委員	「性別にとらわれない行動の促進」というテーマの設定がよい。アンコンシャスバイアスというのはテーマが広く、様々なとらえ方ができるが、まず周知を図るという意味でよかったと思う。 参加者へのアンケートを取っているのであればコメントなどを知りたい。
事務局	アンケートの内容としては「自分のアンコンシャスバイアスに気づけた」「思い込みで決めつけるのは控えようと思った」「自分で思っていた以上にバイアスがあることに気がついた」などたくさんの意見があった。
E 委員	きちんと事務局が把握できているなら大丈夫だと思う。 先ほど職業に対するジェンダー観という指摘があったが、企業でも最近生成 AI の使用が推進され始めており、多言語対応などで AI による機械翻訳が使われている。AI 翻訳すると、日本語の主語のない文は自動で主語が補われるが、その際職業によって he or she が翻訳の元になるデータから機械翻訳に反映されてしまい、結果的にデータ上のジェンダーバイアスの影響が訳文に出てしまうという問題が言われている。
F 委員	女性のためのスキル&マインドアップセミナーに参加した。このような、友達だと近すぎて喋れないようなことを喋れる場を作るというのが公共として大切だと思う。ただ【やってみたいを後押し】というテーマだが、「そもそもやりたいことが…」と言っている方が多く、やりたいことがない人もいるという事にするのか事前に何か考えてきてもらうのかを考えたい。自分の中で思い込んでいることに対して、色々な人の考えを聞いて、これくらい簡単に考えればいいのかと思えるようになっていく様子が見受けられたのでその点は良かったと思った。
G 委員	皆さんのお話を聞いてこれまでにこういったイベントに参加していない人たちにどうやって広げていくかというのが非常に重要な問題だと思う。やはり来て欲しい若い世代の人たちには何か仕掛けをしていかなければ。例えば高校生だったら高校の先生にコンタクトをとって「10 人くらい参加してもらえませんか」というようにこちらから仕掛けないといけない。他にはコーヒーの講座についても友達を連れてもう一回参加とか、自分から自然に来るのを待つのみではいけないと思う。

(2) 令和7年度実績報告及び令和8年度の取り組み予定について

事務局が資料2に基づき説明。

<意見>

A 委員

来年度の取り組みのことではないが、1月にセンターが開催した「災害時に問われる多様性と共生」の講演に参加した。「多様性のことをやります」と言うのとそれに関心のある人、問題にいま直面してるとかずっと考えてきているとか、そういう層にしかアプローチができない。しかし災害×多様性にしたことでもかなり効果的だったと思う。それぞれの関心がある所、専門分野に多様性の観点をもち帰ってもらって反映させていくということをしてもらえたら、さらに一步先にいけるのではと思った。また「こえもじ」というNPO団体による講演内容の文字化・多言語翻訳が行われていたり、五か国語の資料が用意してあったことはとても素晴らしいと思った。しかし日本人の高齢の方が多かったのも、外国人支援をしているような方や外国人市民の方、企業の方など様々な方にアプローチできたら、それが活かされたのではないか。

D 委員

資料中の「女性のための法律相談」の回数が6回とあるが、少ないのではないか。

事務局

一人30分の相談枠、1回の開催で6枠、それを6回開催したので、年間36枠分である。一般的な無料法律相談は時間が限られるため、聞くことを絞っていかないと、あっという間に時間がきてしまうと聞くが、当センターで開催する法律相談は電話相談で相談員が受付をし、あらかじめ相談内容を聞き取っている。また、必要に応じて法律相談時の同席や、法律相談前後に面接を行い、確認や情報の整理を一緒にするという、相談者に寄り添った丁寧な対応をしている。

D 委員

自分も法律相談をしたことがあるが、まず自分の置かれている状況を説明するのに時間をとられて、年度内の回数制限で解決できなかった。そういう対応があるのはいいと思った。

G 座長

男性相談とあるがどれくらいの頻度で行われているのか

事務局

頻度としては月に2回。第2、4金曜日の18:00~20:00に電話相談を実施している。

E 委員

さんかくフェスタも市民活動団体の視点でいえば、団体が出展するという取り組みが非常に良かった。LGBTQ+の理解促進は学生向けだと、最近は大學生がやるよりは市民活動団体が行っている。また大學生の就職活動に対して企業側がダイバーシティについてどう考えているか伝える機会があればいいなと思う。企業の中で自分が感じるのは、LGBTQ+の研修というのは有効ではあると思うが、従業員

の立場からすると研修が非常に多い、テーマとしても色々あり、枠の奪い合いというのは起きているし、最近企業が制度を作りすぎて新鮮味がなくなっている。なので人事が取り組んでる中で優先順位を高めていくことが重要だと思う。

- F 委員 告知をどうするかが課題、若手の社員に向けたセミナー後に制度について知っているか聞いたがやはり知らない人が多い。埋もれてしまっている情報があるのではないか。若者たちに最終的に豊田市に住んでもらいたいから、色々な手当や政策を市としてもう少し発信していかなければならない。
- B 委員 こどもたちを学校で見ていると、知らないことが多い分柔軟で、こちらの出方次第でどれだけでも考え方は変わっていくし外国にルーツのあるこどもたちにも柔軟に対応している。お仕事体験というイベントの中にもジェンダーのことなど自分の好きで選んでいいんだよという事が含まれると思うので、ぜひ回数を増やしてたくさん参加できるようにしてほしい。
- C 委員 講座に来た人を主役にするというのはいかがでしょうか、それによって波及効果でよりたくさんの方が来てくれるのではないかと。失敗談とか経験談でもいい、例えば大学生の話を年上の方が聞くのもいい。コストや場所などは相談だが回数や告知といった点では改善が見込めるのではないかと。
- E 委員 市民活動団体として活動してきて、ダイバーシティについてビジネスとかベンチャーでも取り組みが広がってきている。市民活動だと資金が出ていく一方なのでビジネスとして持続可能な仕組みづくりをしていかなければならない。
- G 委員 市民活動というのはなかなか企業とはリンクできなかったが、むしろ積極的にリンクすることで企業からの協力を得て、企業側も情報を得られる win-win の形になれるような展開を期待したい。

3 その他

4 閉会